

## 日本フィル「被災地に音楽を」訪問コンサート レポート

\*今回の訪問で被災地支援の演奏は、2011年4月から通算108回となりました。

< 第19号 >

2013年6月

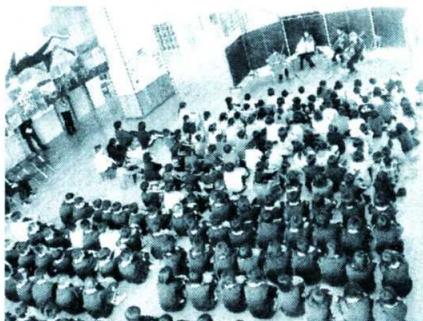
発行:(公財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166-0011 東京都杉並区梅里1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

### 【遅い春が残る新緑の岩手県北部の沿岸地域に、「被災地に音楽を」届けてきました。 5月27日~29日の3日間、田野畠村、普代村、野田村へ】

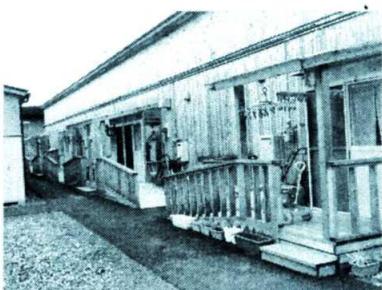
田野畠村、普代村、野田村はNHK朝の連続ドラマ「あまちゃん」の舞台となっている北三陸地域、久慈市から南下した太平洋に面した村々です。リアス式海岸の続く沿岸は断崖絶壁がつづき、激しい景観を見せてています。海岸べりのわずかな平地は漁師の町で、ここが津波で大きな被害を受けました。今回の弦楽四重奏のメンバーはOBを中心とするヴァイオリン三好明子、新井布実(賛助)、ヴィオラ山下進三、チェロ大石修の4人です。



### 【砂地に水がしみこむように…子どもたちの身体に音楽がしみていきます】



初日は盛岡から車で2時間半の下閉伊郡田野畠村へ。午後3時から田野畠中学校のホールでコンサートです。小学生4年生から中学3年生の約200人の子どもたちが弦楽四重奏を初体験しました。演奏曲目はモーツアルト：アイネ・クライネ・ナハトムジーク「第1楽章」、モーツアルト：「狩」、子どもたちが大好きなジブリの曲「天空の城ラピュタ」より『君をのせて』や『千と千尋の神隠し』より『いつも何度でも』など。砂地に水がしみ込むような…とはこんな感じ。真剣に身体全部を耳にしていました。校庭には仮設住宅がびっしりと並んでいました。



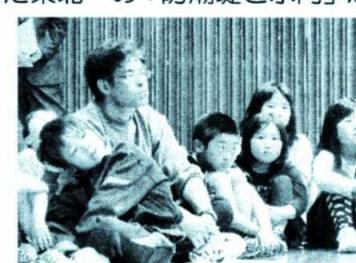
夕方は町役場や保育園や図書館が隣接するアズヴィーホールへ。ここにも仮設住宅があり、60世帯が暮らしていました。田野畠村の仮設住宅は木造で天井が高く、他地域のプレハブと比べると、暖かい感じがします。コンサート会場にしつらえたエントランスはコンクリート打ちっ放しでよく響き、教会の中のような雰囲気でした。仮設住宅からはあかちゃんづれのお母さんや子どももいっぱい集まりました。昼間学校で聴いた中学生が最前列に来ています。「もう1回聴きたかった、泣けるほど感動した」と言ってくれました。



### 【この日のために用意した「北上夜曲】



岩手沿岸2日目は普代村。ここは先代の村長の英断で作った東北一の「防潮堤と水門」が村を救い、亡くなった人が一人という「普代村の奇跡」といわれている地域です。高さ15.5メートル、全長130メートルの「防潮堤」、村の北側には、同じ高さの水門(全長200メートル)があり、こちらも川を勢いよく上ってきた津波をほぼはね返し、小学校を守ったといいます。



朝は特養老人ホームのうねとり荘へ。約80人の方が心待ちにしてくれました。ほぼ全員の方が車いすで職員や家族の方も一緒に聴いていただきました。天井の高いホールに、この日のために用意した「北上夜曲」が流れました。



午後は普代中学校。お昼に学校給食をいただきました。メニューは地元の野菜と海産物のあえものと魚のフライでした。中学生全員と隣の小学校からは4年生以上が参加。普代小を卒業している中学生も、一緒になって小学校の校歌を歌いました。